

川崎医科大学附属病院高度救命救急センターへ搬送された患者さんへ

[研究課題名] 日本航空医療学会ドクターヘリ・レジストリーへの症例登録事業ならびに効果検証

[研究の目的]

本邦におけるドクターヘリに関する診療および運航の状況を全数把握するとともに、地上搬送症例との比較分析を通じてドクターヘリによる診療の効果検証を行うことを目的としています。

[研究の方法]

私たちは日本航空医療学会に所属する主要な施設と共同でドクターヘリに関する診療および運航の状況およびその診療効果を検証する研究を始めました。対象患者さんは、2015年4月1日から2017年3月31日の間(後ろ向き期間として2015年4月1日から倫理委員会承認日までと前向き期間として倫理委員会承認日から2017年3月31日までを含みます)にドクターヘリによって搬送を受けた全ての患者さん、および同期間に川崎医科大学附属病院・高度救命救急センターへ地上救急搬送された患者さんのうち外傷、急性冠症候群、脳梗塞、脳内出血、クモ膜下出血の患者さんです。

利用するカルテ情報には、

- 1) 受傷および発症の状況
- 2) 病院への搬送情報(搬送記録、意識状態、脈拍、血圧、投与薬剤)
- 3) 病院到着時の状態(意識状態、脈拍、血圧、投与薬剤)
- 4) 病院到着後の検査結果(心電図、CT、腹部超音波)、診断名、疾患ごとの重症度、治療内容
- 5) 集中治療室退室日、転院、退院時の身体機能

が含まれます。これらの情報を研究事務局(日本航空医療学会事務局)に送付し、他の施設のデータとあわせて解析を行います。

国内の施設から100,000症例(本院からは2,000症例)が集積される予定です。

なお、各研究参加施設が本研究の目的に必要な研究を行う場合、日本航空医療学会による審査の上、連結不可能匿名化データを提供することがあります。また、研究期間終了後に、全データを連結不可能匿名化のうえ各研究参加施設に提供することがあります。さらに、各研究参加施設は本研究の目的の範囲内で、当該資料を個別の研究に用いることができますようになります。

[利益相反]

研究をするために必要な資金をスポンサー(製薬会社等)から提供してもらうことにより、その結果の判断に利害が発生し、結果の判断にひずみが起こりかねない状態を利益相反状態といいます。この研究は日本航空医療学会の資金で実施され、当施設で必要となる諸経費には主任研究者の教員研究費が用いられます。よって、研究結果に影響を及ぼしかねない資金の受け入れおよび使用はないため、深刻な利益相反の状態にはなっていません。

[個人情報の取り扱い]

本研究において個人が特定できるような個人情報に関わるデータは一切使用いたしません。

研究に関してご質問のある方や研究への参加を希望されない方は、下記までご一報下さいますようお願い致します。

研究組織：川崎医科大学救急医学

主任研究者：所属 救急医学 職名 教授 氏名 荻野 隆光

TEL：086-462-1111(内線25511)、 FAX：086-464-1044